

# 景気動向調査 令和4年7月分（令和4年7月末現在）

大分県中小企業団体中央会では、県内中小企業の現況、課題を迅速にとらえ、これらの情報を行政等へ提供するとともに、本会事業の活用に資することを目的に、中小企業団体情報連絡員事業を実施しています。

この事業では、県内の主要業種46組合に「情報連絡員」を設置し、毎月の景況調査報告（前年同月比）を収集しています。

## 【7月の景況】

7月のDIは、9指標のすべてが悪化もしくは不変という大変厳しい結果となった。

特に落ち込み幅が大きかったのは、収益状況DIの34ポイント悪化、売上高DIの32ポイント悪化、景況感DIの19.5ポイント悪化であり、主要3指標がそろって大幅悪化となった。

加えて、この売上高が厳しい市況下において、さらに、取引条件DI値が9ポイント悪化し△13ポイント、資金繰りDI値が6ポイント悪化し△13ポイントとなっている。6月まで回復基調にあった県内景気動向が、石油・エネルギー製品の価格高騰と、コロナ禍第7波による影響から、再び後退した。

また、今回実施した臨時調査において、電力等のエネルギー価格高騰の影響についてたずねたところ、約7割（回答38件中26件）が影響を受けていると回答しており、販売価格への転嫁をした（する）のは約4割（回答35件中15件）となっている。

コロナ感染拡大は、7月下旬に県内陽性者数が2千名を超える状況となり、行動制限は緩和されているものの、旅行や催事の規模縮小を憂慮する声が調査員から寄せられている。



景況感 DI 値

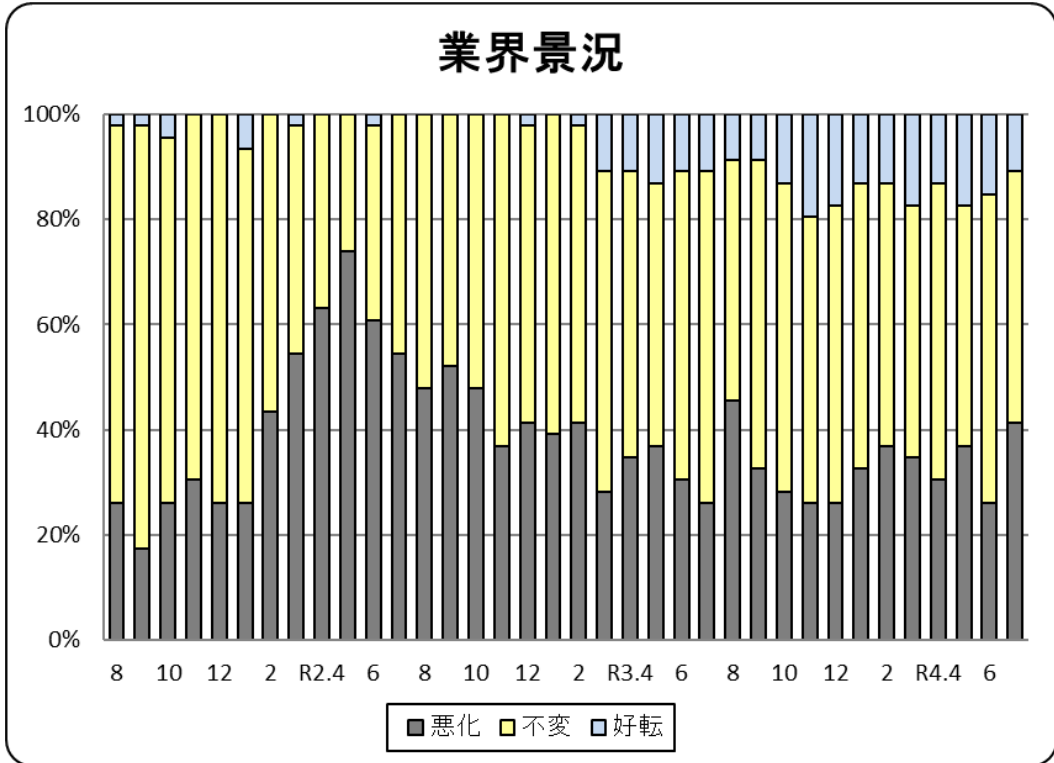


参考：日本銀行「企業短期経済観測調査」（大分支店調査分）

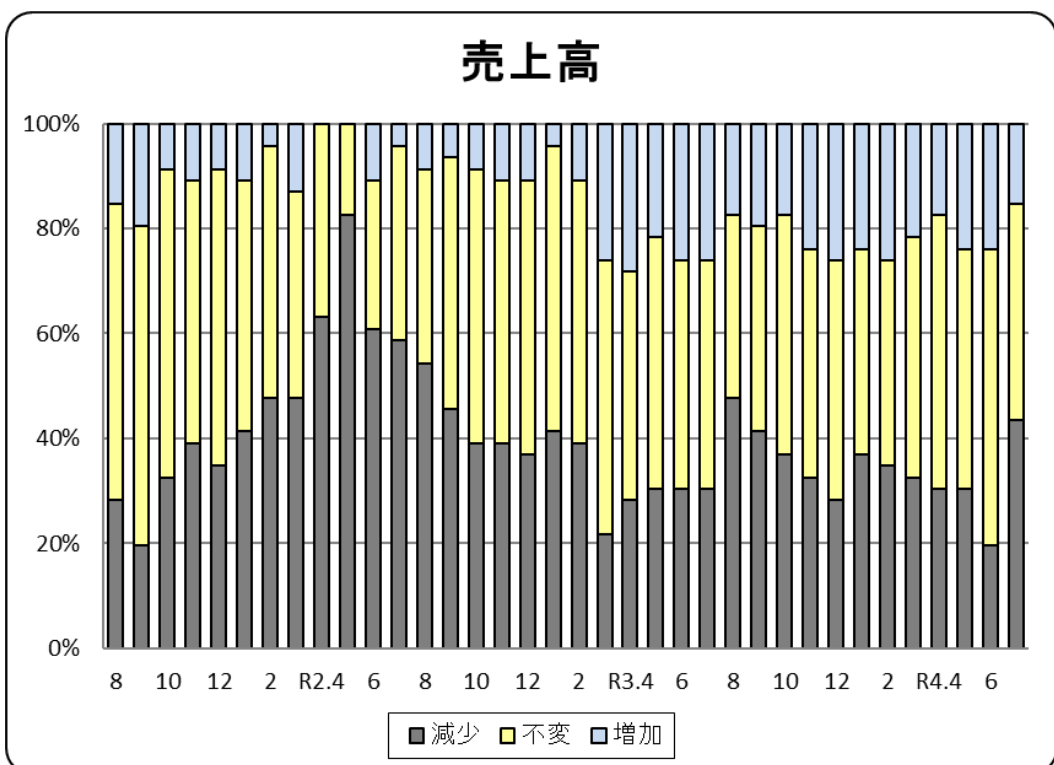
## 【主な調査項目での動向】

主要な調査項目を見ていくと、売上高DI値は、 $\Delta 28$ ポイントとなり前月より32ポイント悪化。収益状況DI値は、 $\Delta 43$ ポイントで前月より34ポイント悪化。雇用人員DI値は、 $\Delta 11$ ポイントで前月から不変となった。

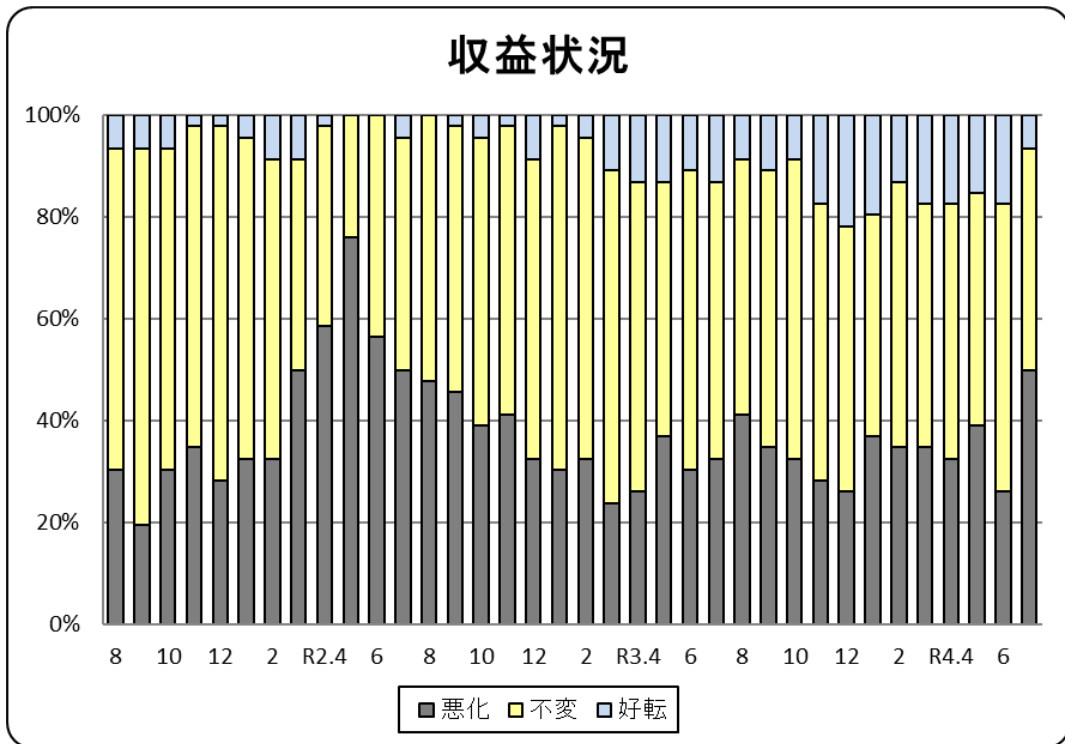
**景況の動向**は、好転は5組合、悪化は19組合であった。DI値は $\Delta 30$ 、4ポイントで前月より19.5ポイント悪化。割合で見ると、好転11%、不変48%、悪化41%であった。なお、好転5組合のうち、非製造業が4組合であった。



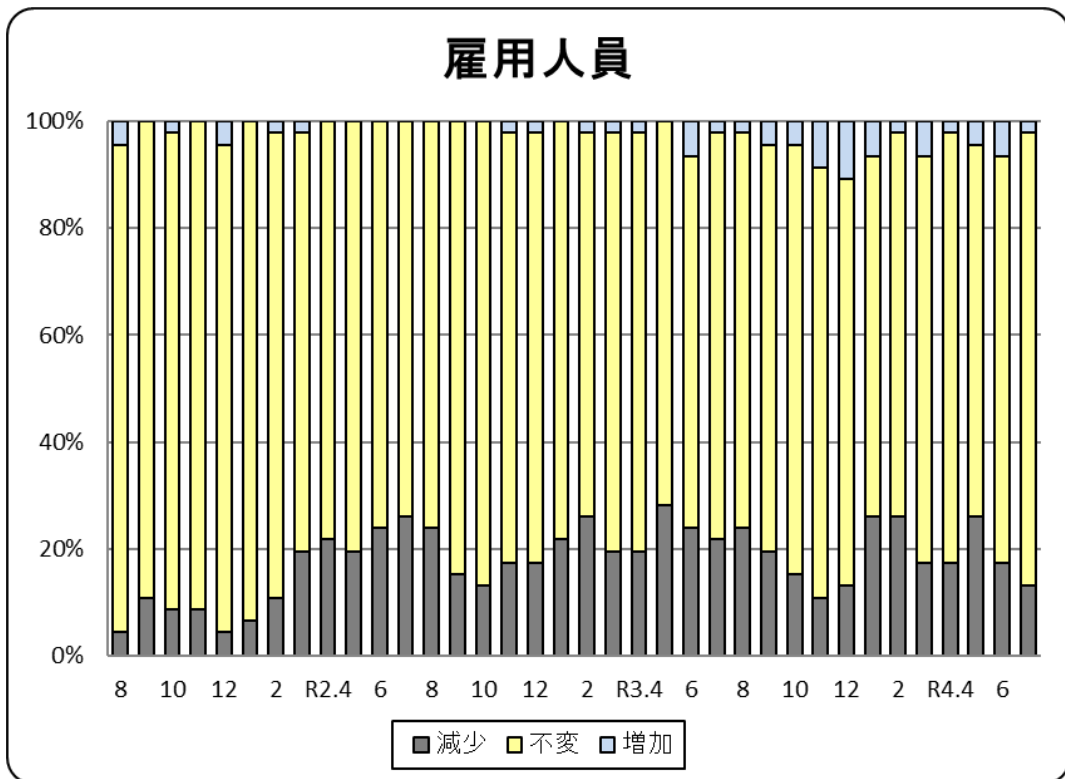
**売上高の動向**は、増加は7組合、減少は20組合であり、DI値は $\Delta 28$ ポイントで前月より32ポイント悪化。割合で見ると、増加15%、不変41%、減少44%であった。



**収益状況の動向**は、好転した組合は3組合、悪化と回答した組合は23組合であった。DI値は△43ポイントと前月より34ポイント悪化。割合で見ると、好転7%、不変43%、悪化50%であった。



**雇用人員の動向**は、増加は1組合、減少は6組合であった。DI値は△11ポイントと変わらず。割合で見ると、増加2%、不変85%、減少13%であった。増加したのは鉄鋼・金属のみである。



(集計方法)

※DI 値(前年同月比)=[(増加・好転組合数-減少・悪化組合数)÷調査対象組合]×100

(業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成します。)

※小数点以下四捨五入

### 主要3指標の前年同月比DI推移【大分県】

